

厚木稲門会だより

発行： 早稲田大学厚木稲門会

事務局 神奈川県厚木市船子607-8

(株)すまいる内

Tel/Fax 046-296-6006

発行人：吉成征一 編集人：鈴木清一

平成27年度 総会・講演会・懇親会開く 会長に吉成氏（昭35文）を選出

平成27年度厚木稲門会の総会・講演会・懇親会が10月17日(土)にレンブラントホテル厚木で開催された。総会には54名が出席し、午後3時に大貫玉美幹事の司会で始まった。吉成会長が恒例により議長に任命されて審議に入り、次の3事項が審議・承認された。

1. <報告事項> 伊保幹事長
 - 平成26年度活動の概要報告
2. <承認事項>
 - 平成26年度収支決算報告 (東方勝彦会計幹事)
 - 会計監査報告 (高坂義郎会計監査)
3. <審議事項> 伊保幹事長
 - 平成27年度活動計画
 - 役員改正(「役員名簿」参照)
 役員改正にあたっては、吉成会長

より、わが厚木稲門会も若手に会を盛り上げてもらう時代に入った、とのコメントがあった。

総会終了後、講演会が行われ会員・来賓・応募のあった一般参加7名を加え、計83名が出席した。

講師は厚木高校出身、稲門会員でもある、徳間書店社長の平野健一氏で、「デジタル時代とコンテンツ」という表題で、出版業界の現状と未来予想をお話していただいた。(詳細別掲)

会場を大広間に移し、引続いて大貫幹事の司会の元、懇親会が始まった。出席者は早稲田大学、慶応厚木三田会、県下の10の稲門会、講演者の平野健一氏そして会員の同伴者と合わせて76名であった。

吉成会長の挨拶の落、来賓の紹



介があり、来賓代表挨拶の先陣は、早稲田大学地域コーディネーターの高橋知裕氏より、大学の近況報告で「今年の早稲田は水泳・ラグビー・野球等、全国的に名の知れた選手が出てきた」とのこと。そして慶応厚木三田会の高橋徹也会長の挨拶の後、横浜稲門会副会長の川崎辰雄氏の乾杯で歓談に入った。歓談の半ばで恒例の福引抽選が行われ、当たった人は大喜びであった。そして昨年より結成された、草薙・草山・朽木氏の3人のリードのもと、全員で校歌を熱唱した。最後に柏木久雄副会長の挨拶で閉会となった。

(S43理工 朽木 達)

講演会「デジタル時代とコンテンツ」

講師 平野健一氏 (昭52教育)

会長あいさつ

吉成 征一 (昭35文)

講師の平野健一氏は、(株)徳間書店の代表取締役であり、ほぼ一貫して編集畑を歩いてこられた方です。出版業界は1996年をピークに毎年売り上げが落ち込み、書店も次々に姿を消していきました。そんな中、出版業界に身を置く当事者として、デジタル時代のコンテンツの変遷について興味深く語っていただきました。

紙媒体の中で、最も落ち込みが激しいのが雑誌。イベントや飲食、宿泊などの情報はインターネットで調べるのが当たり前になり、雑誌を買う人は激減しました。廃刊になった有名雑誌は数知れず。電子書籍もすごい勢いで伸びている

ので、コンテンツのデジタル化は時代の流れであるといえます。

しかし、だからこそアナログ的な感覚を持ち続けることの大切さを説かれています。便利さ、速さ、情報の洪水の中で、五感を使うこと、自分の頭で考えることがますます求められる時代であると、私たちはデジタル+アナログのハイブリット感覚を身に着ける必要があるのかもしれない。

(S57文 草薙 祐子)



総会の役員改選で会長に選任されました。3期目となりますが、これからの2年間、他の役員とともに、厚木稲門会のために微力を尽くしたいと存じます。

厚木稲門会は昭和51年に発足し、今年で39年が経過しました。その間、会員相互の親睦を図ると共に、母校早稲田大学並びに地域社会の発展に寄与することを目標に活動して参りました。今後もこの伝統を引き継ぎたいと存じます。

会員はもとより関係各位のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

